

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。

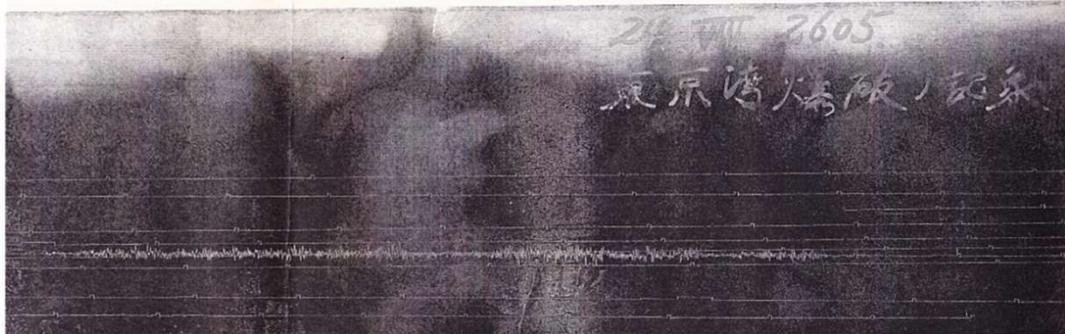
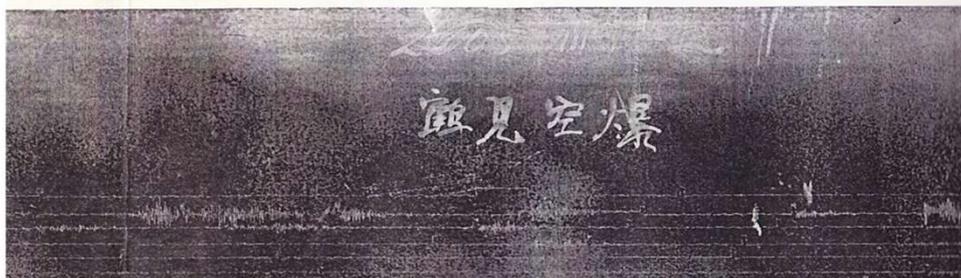


Yoshiaki Yano

線状降水帯が思い起こさせたのは？！

今月15日は、戦没者を追悼し、平和を祈念する日です。終戦から78年経ちました。私は30年ほど前、横浜地方気象台で勤務し地震担当をしていたことから、大量の古い地震の記録紙を整理したことがあります。円筒ドラムに巻き付けた白い記録紙に、灯油を燃やして煤(すす)を付け、その煤を地震計の針先が搔いて地震波を記録したものです。中には1945年の終戦前後の記録も幾つも残っていて、驚くべきものに出会いました。

上の画像は横浜市鶴見が波状的に長時間にわたり空爆を受け、その振動が横浜にも伝わっていたことが分かります。1945年8月の記録紙ですが、日にちは読み取れず定かではありません。下の画像では「24 VIII 2605」の文字が明確に読み取れます。



画像提供：横浜地方気象台 時間は左から右へ、上から下に経過していきます。

この「2605」とは当時用いられていた“皇紀”という年号で、“2605年”を意味し、西暦1945年を指します。「24 VIII」はローマ数字で月を表し、終戦の日から9日目の“8月24日”を示しています。「東京湾爆破ノ記象」と記されていることから、東京湾に設置されていた日本軍の砲台などの軍事施設が、占領してきた連合軍により爆破された際の振動記録です。この記録紙によれば爆破の振動は8分ほど続いていました。

地震記録紙には「空爆」という文字の他に、「空襲」とか「焼夷弾」という文字も記されており、歴史を肌で感じずにはられません。空爆などを受けた場所では、私などのような者には想像もつかない阿鼻叫喚を極めるほどの苦しみがあったはずで

昨年名を馳せてきた“線状降水帯”の発生についても同様な思いがあります。今年も西日本や北陸・東海地方などで数多の発生があり、大きな災害を引き起こしています。積乱雲によって局地的大雨(ゲリラ豪雨)が降り、被害を引き起こすことがあります。この積乱雲がほぼ同じ地域で繰り返し発生し、次々と押し寄せてくる様子は、先述した空爆などと類似していると感じてしまいます。

報道やスマートフォンなどで線状降水帯が発生していることを知ったとき、その地域の人々が今のような状況下にあるのだろうかと思わずにはられません。被災された方々の話をテレビなどで見聞きすることがありますが、その多くの方々が、“こんな酷い災害は初めてだ！”“ここで何十年も住んでいるが、これまでこんなことはなかったのに！”とおっしゃるのをよく耳にします。地球温暖化の影響により、私たちは“かつて経験したことのない”気候変動に直面しています。テレビの向こうの出来事としてではなく、自分事として捉えるよう心掛けていきたいと思